

令和3年度8月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和3年8月3日（火）午前11時00分～11時35分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ9社

会見内容

1. 話題提供（2項目）

1. 新型コロナウイルスワクチンの接種について

- 最初に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてです。
- 釧路市では、7月末までに、接種を希望される「65歳以上の高齢者の方」への接種を完了しており、7月中旬からは高齢者に次いで優先接種とされている「高齢者施設等の従事者」への接種を開始しているところです。
- 昨日8月2日までに、ワクチンの1回目の接種を終えた方は、約58,900人、2回目の接種を終えた方は、約53,900人となっております。
- 8月からは「基礎疾患を有する方」、「60歳から64歳の方」および「54歳から59歳の方」のワクチン接種を開始する予定です。
- スケジュールといたしましては、「基礎疾患を有する方」は、8月2日現在、約5,000人から事前登録のお申し込みをいただいております、予約開始が8月9日（月）、接種開始が8月16日（月）となっており、予約のご案内は、本日8月3日に発送いたします。
- 「60歳から64歳の方」につきましては、予約開始が8月12日（木）、接種開始が8月16日（月）となっており、予約のご案内は、8月6日（金）に発送する予定であります。
- 「54歳から59歳の方」に対し、予約開始が8月14日（土）、接種開始が8月16日（月）となっており、予約のご案内は、来週8月10日（火）に発送する予定であります。
- 予約が始まりましたら、対象の方々のワクチン量を確保しておりますので、あせらずに落ち着いて、インターネットもしくは、コールセンターからのご予約をお願いいたします。
- また、先日、河野規制改革担当大臣が、9月以降のワクチンの供給について、今週中に都道府県にどのぐらい供給するか発表するというのを、報道番組でコメントされているところであります。

- 9月中に、各自治体の人口の8割の方が2回接種できる分のワクチンを供給できるようにするというので、9月に大規模集団接種会場を設置できるように、準備をしていく体制をとっていきたいと考えております。

2. 長期滞在者と市民との交流事業の実施について ～JR釧網本線「塘路ヒストリーツアー」～

- 続いて、長期滞在者と市民との交流事業～JR釧網本線「塘路ヒストリーツアー」～の実施についてです。
- 本事業は、「くしろ長期滞在ビジネス研究会」が主催し、長期滞在者と釧路市民との交流およびJR釧網本線の利用促進を目的に、来月9月1日（水）に実施いたします。
- JRを活用した長期滞在者と市民交流の企画は令和元年度に始まり、今年で3回目となります。毎回、好評を博しており、昨年は募集開始から数時間で定員に達した人気企画となっております。
- 今年は、別添資料のとおり、JRの貸し切り車両にて、釧路駅から標茶町茅沼駅まで、釧路湿原の雄大な自然を車窓から楽しみながら乗車いただきます。
- その後は、標茶町の塘路地域を散策し、自然風土やそこに根付いたアイヌ文化など、現地の学芸員から、通常の観光ではわからない、大変興味深いお話が聞ける内容となっております。
- 来週8月10日（火）から13日（金）まで参加者の募集をし、定員30名を超える応募があった場合には抽選を行いますので、この機会に、ぜひ、ご応募いただきたいと思っております。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ ワクチンの大規模集団接種について、9月のいつ頃になりますでしょうか。

(市長)

- ・ ワクチン供給のスケジュールが、北海道から人口規模を基本として、今週中に示されることになっております。私どもとしては、早くから実施できるように準備をしていこうと考えており、今、会場として、MOO5階の多目的アリーナを確保し、そこで、どのような準備ができるか作業をしているところです。

(質問)

- ・ これまでの大規模集団接種会場は、釧路市観光国際交流センターでしたが、今回、MOO5階に変更するのは何故ですか。

(市長)

- ・ 釧路市観光国際交流センターにおきましては、今後、様々な会議、イベント等が予定されている状況であります。前回につきましても、釧路市観光国際交流センターでは、7団体の方々にご協力をいただき、会場をあけていただきましたが、今回は、かなりの使用申請が入っており、非常に難しい状況になっているところ

です。そこで、MOO 5階の多目的アリーナは、体育館のようになっている会場であり、ひと月前に利用申請を受け付けることから、9月からの利用については、7月時点では受け付けをしておりませんので、しっかり会場を確保できる状況となっております。

(質問)

- ・ 9月以降の接種については、年齢や対象等はどのようになるのでしょうか。

(市長)

- ・ 円滑に進めていくことが望ましいと思っておりますので、コールセンター並びにインターネット予約の容量等も関係するところです。これまでも、一定程度、年齢階層を分けていきましたので、今後についても、時間的にスムーズに予約ができるような方法を考えていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 基本的には、年齢が上の方々から進んでいく形になるのでしょうか。

(市長)

- ・ そのようになります。

(質問)

- ・ 65歳以上の高齢者については、接種希望者が49,206人で、1回目の接種は全員受けられて、2回目の接種が44,669人ということですが、何か事情があって2回目来られなかった方もいるのかと思います。このような方も一定数おりますが、接種完了とみなしていいということでしょうか。

(市長)

- ・ 接種完了についての考え方ですが、私どもは、65歳以上の接種を希望される方々が全員受けられるよう、ワクチンの供給能力をしっかりと確保した上で、大規模集団接種会場を設置いたしました。こちらの中には、エッセンシャルワーカーの方々等もいらっしゃいましたが、まずは、7月末まで、65歳以上の接種を希望される方々が全員受けられる接種体制を確保いたしました。ワクチンをどのように接種されるかは、基本的には個人の判断によるものですので、日頃から通っている「かかりつけ医」で受けたい場合に、そこが予約で一杯となっていることがあります。大規模集団接種会場や他の場所であれば、接種を受けられる供給能力があったのですが、そちらを選んだということになりますので、7月末までに皆さんが接種を受けられる体制を整備し、行ってきましたので、完了したと発表させていただいております。

(質問)

- ・ 2回目の接種を受けていない人がいるかもしれませんが、希望する人は、7月末までに接種を完了したとみているということでしょうか。

(市長)

- ・ 7月10日までに1回目の接種を受けられるよう、7月10日までの1週間は接種体制を強化し、7月末までに2回目の接種を終了できる体制を整備し、実施してまいりました。そのような意味で、完了ということ、お話をさせていただいております。

(質問)

- ・ 7月末のワクチン接種完了について、ニュースでお伝えしたところ、かなり多くの視聴者の方から、2回目の接種の予約が7月末からずっと取れない状況が続いているけれども、7月末で接種完了ということは、どうしてなのかといった声をたくさん頂戴しました。本日、コールセンターに確認したところ、現状、8月

5日までの予約は全て埋まっており、7月末から新規予約ができない状態になっているということでした。これは、ワクチン接種を7月中にしたかったけれども、できなかった方が一定数いると思うのですが、どのように見えていますか。

(市長)

- 7月の中で、予約が一杯になった日があったことは存じております。どこで接種をするというように場所を希望して限定してしまいますと、そのようなことはあり得ると思っております。そこで、7月中に接種を受けられるように、大規模集団接種会場の接種体制を強化し、予約ができるような体制を取りながら進めてきたところですので、希望する日にちと場所を合わせることは難しいところですが、医療機関と調整し、医療従事者を確保し、接種体制をしっかりと整備してきた認識であります。65歳以上の方々には、7月10日までに1回目の接種を行っていただき、7月末までに2回目の接種を終えられる体制をとってきました。それ以降については、接種能力がワクチン供給量の関係で変わってきているということですので、予約が取りづらくなっていることは、認識しております。その上で、今月8月16日からの接種につきましては、8月中のワクチン供給量の確認ができましたので、医師会の皆様にもご協力をいただいて、週7、500回ぐらいの体制で進めていこうと考えているところです。

(質問)

- 先日までの大規模集団接種会場については、国の補助金を活用して行っておりましたが、これからの大規模集団接種会場は、市の予算のみで行うのでしょうか。

(市長)

- 基本的に11月までに接種を終わらせたいということで、前回と同様の形で補助制度の延長が示されたので、再びその制度を活用していく形で考えております。

(質問)

- 前回の大規模集団接種会場では、1日1、200人規模の接種であったと思いますが、今回の体制は、同様の規模になるのでしょうか。

(市長)

- 今週中に、どのぐらい北海道でワクチンを確保できるかということになると思います。各自治体の人口の8割が2回接種できる分を、9月中に供給するというコメントがありました。これは、かなりの量になると思うのですが、その数字は、今週中に発表されるということですので、その数量によってどのぐらい接種ができるかということになると思っております。現在、市内の医療機関の方でも、接種能力を上げていただく形になっております。もちろん各医療機関は、通常診療を行いながらの対応になりますので、今後、どのぐらいの接種体制にするのか決めていきたいと思っております。

(質問)

- 大規模集団接種会場の設置準備に向けた意気込みについて、よろしく申し上げます。

(市長)

- 接種を希望される方に対しましては、速やかに安全に接種をしていくことが重要であると考えております。大規模集団接種会場の設置に向けた準備を進めていくことは、当然のことであると思っておりますので、医師会の皆様にご協力をいただきながら、円滑に行っていけるように準備をしていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 日本製紙の停機の時期が迫ってきましたが、釧路市との協議は、どのようになっていますでしょうか。

(市長)

- ・ 7月9日に、私も本社の方に伺い、色々とお話をしてきたところであります。日本製紙の中での発表については、11月の発表のみという状況ではありますが、色々なことを進めているところであります。人の雇用については、まずは、会社として、しっかりと対応しております。あわせて、私たち自治体や管内町村、経済界も含めながら、対応を行っております。そこで、ポイントとなりますのは、私どもが3月1日からお話ししております跡地利用についてであります。その計画づくりで、どのようなところを使いながら発電事業等を進めていくのか、また使用しないところについての作業を早めていただきたいということでもあります。この他に、色々なところからも会社の方にお話がいつている状況があり、会社側も丁寧に対応しており、今のところは、そこに留まっているという実態であります。その後の計画については、日本製紙の方で色々な作業を9月いっぱいには終える予定となっておりますので、より具体的な跡地のことについて、ご相談を加速させていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 9月の作業が全部終わった後に、跡地利用のことについて考えていくということでしょうか。

(市長)

- ・ 加速させるということです。現状でも色々な動きはあることは承知しているところですが、そこをしっかりと加速させていきたいと考えております。

(質問)

- ・ これまで跡地については、民間の会社の話なのでということもおっしゃっており、市として相談を加速させるということはどのような意味なのでしょう。

(市長)

- ・ 私どもは、跡地について計画を作っていただきたいというお話を進めてきました。様々な過去の事例で、釧路市にとどまらず、計画が白紙の状況であった場合に、これから作っていくこととなりますと、15年や20年といった時間軸になります。計画を持っていても、5年といった一定程度の時間がかかっているのが現実であります。そこで、市街地の中で広大な跡地が白紙の状況で止まるということがいつまでも続くことは、まちづくりにとって大きなマイナスであるというお話をさせていただいたところであります。所有者であります日本製紙として、跡地利用の計画を、ぜひ作っていただきたいということをお話させていただきました。私どもとしても、前段階で工場を残していくための色々なプランニングを提示させていただいて、それを全て考えられたという状況でありました。次の段階に向けてということでもありますので、会社の動き、その他の動きも含めて、私どもの方からも情報提供をしていきながら進めていくことになると思っていますので、そのような意味で加速させていきたいといったお話をさせていただいているところです。

(質問)

- ・ 白紙ということにならないように、計画づくりのための情報提供やサポートをしていくということでしょうか。

(市長)

- ・ はい、しっかりと計画を持ってもらうことが重要です。ここが止まりますと15年、20年そのままになってしまいます。

(質問)

- ・ 昨年の秋に、生産終了のお知らせを受けてから、商工会議所や色々な関係機関と連携し、本社も訪問して、かなり精力的に動いておられたと思うのですが、今月の生産終了前に、地元として、できたこと、できなかったことを総括していただきたいと思います。

(市長)

- ・ 地域と会社が連携することは、非常に難しい議論であると思っています。今は、地域が一体となって、様々な取り組みをしながら進めていきましょう、ウインウインの関係になって進めていきましょうということが重視されていると思いますが、どちらかといいますと、城下町ということもあり、一つの大きなものがあって、その中で様々なことが成り立っているといった文化、歴史的なものがあつたと思っております。やはり地域を築いてきた歴史も踏まえた中で、その重みも会社の方にも感じていただいているところでもありますので、会社の資産を、今まで100年の歩みを踏まえた中で、地域が躍進するために活かしていくような立ち位置に立っていただいているものと考えておりますので、これからが重要になってくると考えております。

(質問)

- ・ 今月16日に停機するということですが、それまでに市長が工場に行くようなタイミングや会社側からの打診等はないのでしょうか。

(市長)

- ・ 特にありません。

(質問)

- ・ 淡々と終わっていくということですが、昨年の秋からの熱意が、今はかなり落ち着いてしまった感もあるのですが、いかがでしょうか。

(市長)

- ・ 何とか工場を継続していただきたいというところから始まった動きと、今は違うということは、ご存知のとおりだと思っております。私どもとしては、今後の計画に向けての取り組みを相談しているところで、見た目はどのように見えるかはわかりませんが、熱意としては一緒です。その計画が無いと、長い間に渡ってそのままになってしまうということで、これを避けなくてはならないという思いで、何度もお話をさせていただいているところです。工場は停機ということになります。工場の広大な資産がある訳で、ここをこれから鉏路市と連携を取りながら進めていく方法があると思っております。工場の停機は、一つの節目という言い方もあるかもしれませんが、見方を変えれば、日本製紙の資産と鉏路市、経済界も含め、次なるスタートに繋がってくるものであると思っております。現実問題として、人の雇用の問題等もありますが、そのように受け止めて進めていくことが必要であると考えております。